

国指定史跡

うら そえ じょう あと
浦 添 城 跡

発掘調査現場見学会



発掘調査で新たにみつかった城壁の切石

2016(平成28)年2月14日(日)

浦添市教育委員会

浦添城跡の歴史

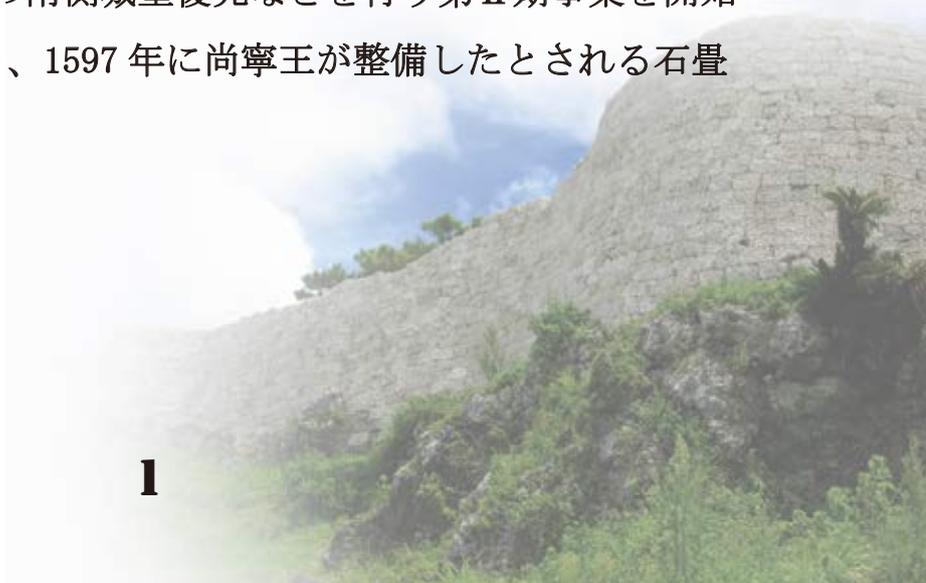
浦添城跡は首里城以前の中山王の居城^{きよじょう}だった大型のグスクで、これまでの発掘調査で13世紀末～14世紀初頭に築かれ、14世紀から15世紀初め頃に大規模なグスクになったと考えられています。政権の拠点^{きよてん}が首里城に移ったあとの16世紀初めには、尚真王^{しょうしん}の長男・尚維衡^{しょういこう}が移り住み、その子孫の「浦添家」の屋敷となっていたようで、1589年には尚維衡のひ孫である尚寧^{しょうねい}が第二尚氏第七代の国王となりました。なお、1609年に薩摩^{さつま}の島津氏^{しまづ}が琉球に攻めてきて、その折に浦添グスクは焼き払われてしまいます。

1945(昭和20)年の沖縄戦では、浦添城跡のある丘陵^{きゅうりょう}が日本軍の陣地となり、米軍との間に激戦が展開され城跡は大きく破壊されました。また、戦後には大規模な採石も行われ、浦添城跡は著しく姿を変えられてしまいました。

浦添城跡の復元整備

1989(平成元)年に浦添城跡は国の史跡に指定され、これを機に復元整備事業がスタートしました。浦添市教育委員会では事業を四期に分け、第Ⅰ期事業として平成17年度までに浦添ようどれ^{えいそ}(英祖王の墓といわれ、後に尚寧王とその一族も葬られた)の主要部分の復元を行いました。

平成18年度からは浦添城跡の南側城壁復元などを行う第Ⅱ期事業を開始しました。すでに城壁の一部と、1597年に尚寧王が整備したとされる石畳道の復元を行っています。



調査の目的

浦添城跡の城壁の切石は、沖縄戦における破壊と、戦後復興^{ふっこう}の用材として利用されたため、現在は一部をのぞき城壁がほとんど残っていません。とくに内郭西地区^{ないかく}と呼んでいるエリアの南側は、これまでの発掘調査でも城壁が見つかっていませんでした。ですが、平成26年度の調査において、内郭西地区南側の岩盤上より城壁がみつかったため、その城壁の続きを確認することを目的として、今回の発掘調査を実施しました。

平成26年度（去年度）の発掘調査

14世紀から15世紀初め頃に造られた城壁を確認しました。城壁は岩盤の上に構築されており、確認した城壁の長さは欠損部^{けつそんぶ}も含めて23mを測ります。残存する石積は最大7段を数え、縦目地^{たてめじ}*が通るといふ特徴から平成19年度に復元整備を行った城壁につながると考えられます。



◀ 平成26年度調査で見つかった城壁

* 縦目地…石積などの継ぎ目のことを目地といい、縦方向に入る目地を縦目地といいます。目地が一直線に続くことを「目地が通る」と表現します。

▶ 平成26年度調査地区を上から撮影したもの

困った部分は残存石積で、点線は城壁の想定ライン。



今回の発掘調査でわかったこと

今回の発掘調査は去年度の調査地点から北西に25m離れた場所で行いました。調査区は南北25m、東西5mの範囲で設定し、調査区東側は高さ2mの琉球石灰岩の岩盤となっています。平成27年11月から調査を行ったところ、去年度に引き続き城壁の切石を確認することができました。

確認した切石は全部で6個を数え、調査区南端の岩盤上に3個、4.5mほど間をおいた北側に3個を確認しています。切石はいずれも琉球石灰岩を横長の長方形に加工したもので、ここに積まれた城壁が布積みぬのづみと呼ばれる技術で積まれたものだったことがわかります。

今回確認した切石以外の城壁は、戦前から戦後にかけて持ち出されたものと考えられます。切石が抜き取られた部分を見ると、岩盤が幅70cmほど平らにはつられている状況を確認することができ、城壁構築時こうちくにあらかじめ岩盤を加工したうえで切石を据えたことがわかります。

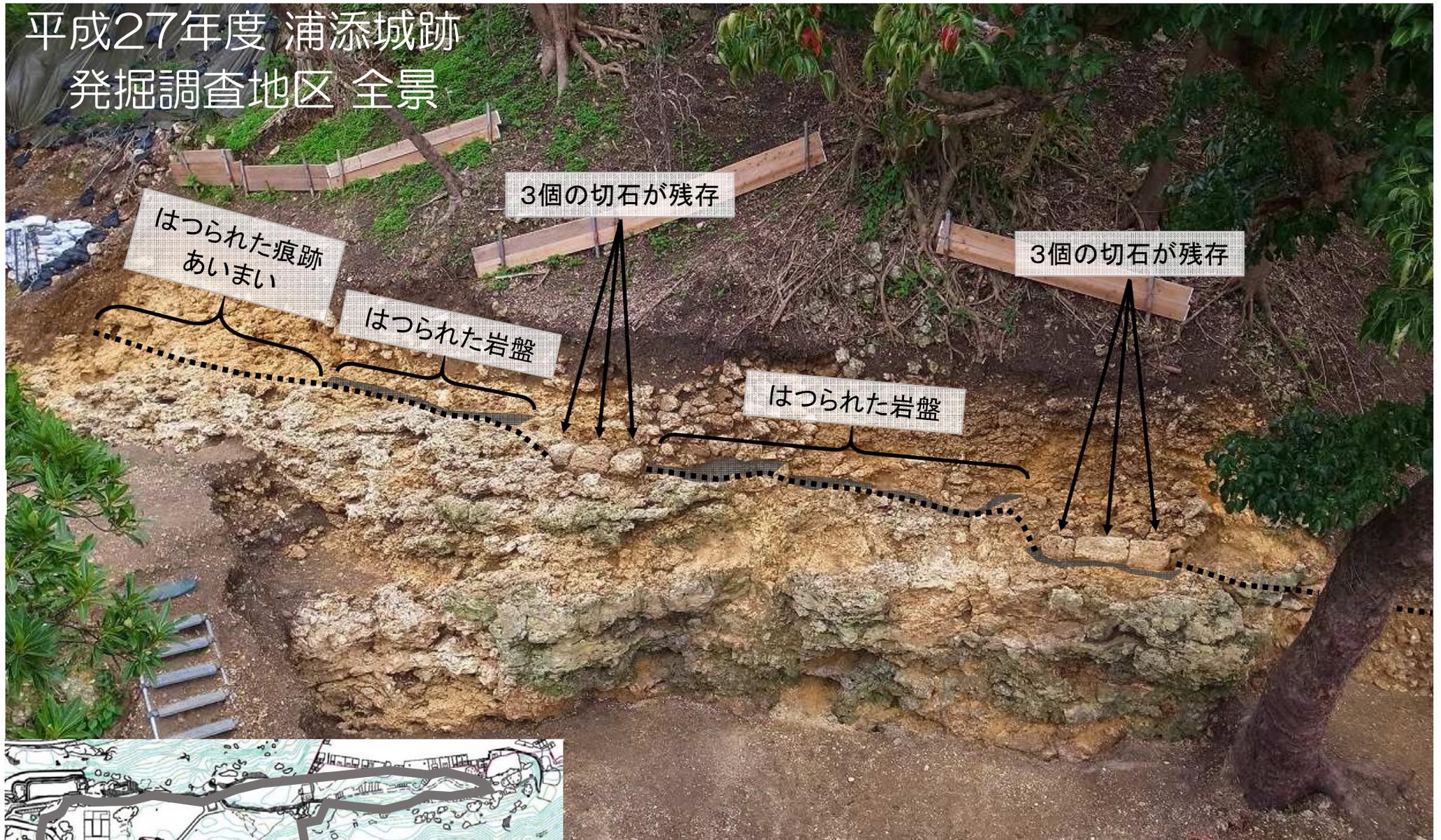
調査区の東側では明瞭めいりょうにみられる岩盤のはつり痕ですが、北側に行くに従いその痕跡はあいまいになっていきます。沖縄戦直後の航空写真を見ると、調査区北側周辺は白くなっている状況を確認することができることから、この岩盤は戦後に削られてしまったのかもしれない。

なお、今回調査を行った地点と去年度に行った地点の間の城壁は、戦後の碎石さいせきや土砂崩れなどで既に失われています。

今回の発掘調査の意義

- ・ 去年度に引き続き、内郭西地区南側の城壁ラインを明らかにすることができました。今回の発見によって、このエリアにおける城壁の復元整備の精度せいどをこれまで以上に上げることができるようになりました。
- ・ 去年度の発掘調査では岩盤の縁辺部えんぺんぶで城壁を確認し、これをもとに「今後は同様の地形に着目して発掘調査を行えばよいという目当てを得ることができました。」としました。今年度の発掘調査では去年度と同様に岩盤の縁辺部で城壁を確認しており、去年度の知見ちけんが有効であることを再確認することができました。

平成27年度 浦添城跡 発掘調査地区 全景



3個の切石が残存

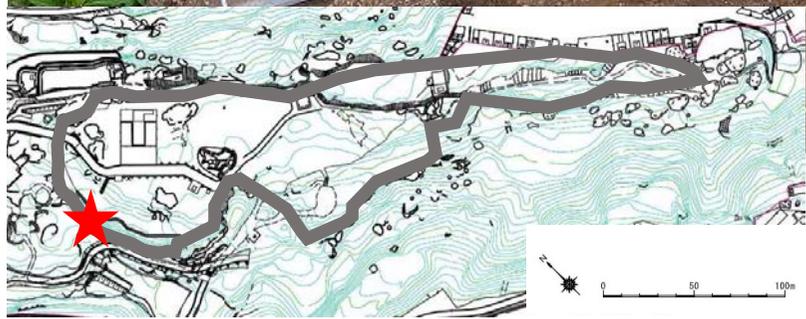
3個の切石が残存

はつられた痕跡
あいまい

はつられた岩盤

はつられた岩盤

4



..... 想定される城壁のライン